

平均台

著者・発行者
かぶや亭坊楽◎

『月刊いしい平均』増刊第13号

189

（小冊子『平均台』からの通しナンバー）

A「あー、うまかった…が、もう一杯飲もうか」

B「いやあ、この辺でやめとこうよ」

A「そうかい。数杯やったら、終りか。ふーむ」

B「感心してるのか？ 何か言いたそうだな」

A「数杯でピリオド打ちなんて、俺にや出来ねえ。崇拜しちゃうよ」

190

兄「いい空気を入れるようにガラス戸を開けよう」

弟「換気かい？ それも悪くないが、今日は、寒

気が強いから相当冷えるぞ」

兄「それくらい覚悟の上よ。空気が綺麗になりや、

こっちの気分も上々にならあ」

弟「さよか。じゃ、ご機嫌で歓喜の歌でも唄おう！」

191

大相撲ファン甲「今年は、日本出身力士の優勝が2度あったり、稀勢の里・琴奨菊・豪栄道が綱取りに挑んだり、この何年のうちで一番活気があったね」

おなじく乙「うん確かに。それにしても、去年の

北の湖に続いて、今年、千代の富士が他界して淋しいなあ」

甲「その二人みたいな『ずばり俺のこの型』というのを持つてる日本人横綱は次にいつ現れるんだろう」

乙「百年河清を俟つ…なんてんじゃあ情け無いのお。かせい、火星、そうだ彗星のような登場に期待しようっと」

192

都会の女性「田舎の母は、今でも庭の木から採った実で梅干しを作るし、自分の菜園の野菜を糠漬けに仕込んでるのよ」

その友達「へえー、素敵ね。其処行くと私たちは、何でもスーパーカーかコンビニで間に合わせちゃうわね」

「ほんとに。母も、いい年だけれど、幼少からの積み重ねパワーは、半端じゃないねえ」

「全く。老婆は、一日にして成らず！」

193

金沢市民X「兼六園の雪吊り。綺麗なものだね」

Y「冬の風物詩って言われるね。わざわざ観に行っ

たのかい？」

X「うんにゃ。ほんの行きずりであ」

194

夫「国政の色々な課題を取り上げて、『有識者会議』が設置されてるなあ」

妻「そうね。精々良い智慧を出して、好ましい方向への答申を示して欲しいわ」

夫「だが、会議メンバーを見ると、何でこんな人が就任してるの？ 普段『色眼鏡』懸けた発言の多い問題児じゃん、と思っちゃう人物が結構居るんだ」

妻「人選が、おかしいからよ。こっちが『憂色者』になって、ちゃんと批判しないと」

195

女「歌謡大賞だのアカデミー賞だの色々な受賞候補が取り沙汰されて、賑やかだね」

男「うん、最後にズバリ当選する人は勿論、候補にノミネートされるだけでも大変光栄なんだ。そこ行くてえと俺なんぞ、そんなもんにゃ全く縁が無えわ」

女「いいえ、捨てたもんじゃないわ。こないだ上役から言われたでしょ」

男「えっ、あゝ例の商談成功の時かい。どんなセリフだった？」

女「『やったぜ！ その居酒屋で呑みねえっ』と」

196

アメリカの大統領選挙余聞…

共和党の或る人「トランプだから勝つことも負けることも思ってたら、勝っちゃった」

民主党の然る人「クリントンの勝利だと確信してたが、相手にヒラリと体をかわされた」

